

ALIC/MLA 牛肉需給情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）と牛肉需給情報交換会議を開催しました。

本会議は昭和 62 年から相互国において、原則として毎年開催しており、今回で通算 17 回目となります。

1 日 時：平成 20 年 11 月 17 日(月)

2 場 所：ALIC 本部

3 参加者

ALIC 木下理事長、井田総括理事、太田理事、村尾総括調整役、神浦食肉生産流通部長

MLA デイビッド・パーマー社長

サマンサ・ジャミソン駐日代表

トラヴァス・ニコラス駐日副代表

内田良子マーケティングアシスタント日本担当

4 会議内容

木下理事長とパーマー社長の挨拶の後、ALIC から日本の牛肉需給について、MLA から豪州の牛肉需給等について説明し、双方の意見交換を行った。

<ALIC からの牛肉需給についての説明概要>

日本の直近の食肉消費に占める牛肉の消費動向、今後の生産予測等について説明し、意見交換を行った。

<MLA からの牛肉需給についての説明概要>

- 2008 年は、2 年続いた干ばつから回復している状況であるが、南部はまだ降雨量が少なく、予断を許さない状況
- 冬穀物の収穫は、平年レベル（1,700 万トン前後）が見込まれ、草地も良い状態に回復する見込み。飼料穀物の価格も低下しているが、肥料や燃料などの生産資材コストが増加しており、今後の穀物生産にどのような影響を与えるか動向を注視している。
- フィードロットの収容能力は同水準を維持。干ばつ等により減少した飼養頭数は、穀物価格の値下がりや豪ドル安により、増加する見通し。
- 肉牛の飼養頭数は、干ばつにより 2007 年はわずかに減少したが、その後は緩やかに増加し、2010 年は 2,865 万頭（2007 年比 2.2%増）と予測
- 2008 年の豪州からの牛肉輸出量は、高水準で推移する見込み。輸出相手先としては、北アジア向けが減少するが、米国向けは増加。また、ロシア、インドネシア、フィリピンへの輸出が増加する見込み。
- 豪州国内の牛肉需要は、国内の小売価格が上昇しているにもかかわらず、消費は増加（10 年間で約 20%増加）
- M L A は、牛肉の赤身肉の成分など栄養面について豪州科学産業研究機構（C S I R O）やシドニー大学などと共同研究を行い、その結果に基づき、「赤身肉を週に 2～3 回は食べよう」などといったキャンペーンを実施している。

お問い合わせ先  
食肉生産流通部食肉需給課  
藤野、山崎  
03-3583-1153